

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)		スーパー（店長）	・相場高かつ、気温の高さは当面続くと思うので、好調に推移する。
		乗用車販売店（役員）	・新車販売の発注が予定されている。
		住関連専門店（経営者）	・低金利を背景に、分譲住宅が引き続き建設されており、住宅が完成すれば、我々の企業にとっては、需要があるので、今後は期待したい。
		旅行代理店（営業担当）	・平成30年7月豪雨の影響が回復すればやや良くなる。
		タクシー運転手	・平成30年7月豪雨等があり、7月は人の動きが少なかったが、8月はよさこい祭り等、大きなイベントがあるため、やや良くなると予想する。また、夏休みということで利用が増える。9月、10月は例年、人の動きが少し良くなる月である。
		タクシー運転手	・秋が来るとお遍路さんの仕事が多くなるため、街で走っているよりは売上は少し良くなる。秋の夜は、多少、今よりは動くと思われる。
		通信会社（技術）	・過去実績から、現在の販売量増加状態が継続できる。
		通信会社（営業部長）	・新商品発売で販売拡大が期待できる。
		競輪競馬（マネージャー）	・2～3か月先は、時候も良くなり、客足、売上共に上向くと予想する。
		設計事務所（所長）	・当県は平成30年7月豪雨災害を受けており、その復興需要が急速に出てくる。
		商店街（代表者）	・第2期中心市街地活性化基本計画も、徐々に形が見えて進んでいる。いろいろな行政施設がコンパクトシティのごとく、中心に増えている。ホテル、マンションもできており、商店街を取り巻く環境は、かなり整備されている。
		商店街（事務局長）	・米中の貿易交渉が日経平均や為替に影響しており、現在好調な富裕層の消費に影響するほどのダメージや摩擦は避けてほしい。中所得層の所得が改善しないことには消費向上につながらない。地方でも一部で所得が向上し始めたと思われることから今後の動きに期待している。
		商店街（代表者）	・いろいろな状況から判断して、地方都市の活力を強化する方策は見付けにくい。この状態がしばらく継続するのではないかと。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・客の数も多くないが、1人当たりの購買数量が少なく、本当に必要なものしか購入しない傾向にあり、好転しそうに思えない。
		百貨店（販売促進担当）	・6月の回復傾向から一転して、7月は悪化した。悪天候の影響を除いても衣料品の苦戦が顕著であった。
		百貨店（販売促進）	・気候の変化等で、現時点では停滞気味だが、今後、季節の変わり目に向けて、やや上向きになることも予想される。インバウンドが全体的に好調に推移しているため、底上げにつながると思うが、地域経済は、なかなか上昇しきっていないので、全体的には変わらない。
		スーパー（企画担当）	・値上げに対する客の対応は、同一商品であれば、少しでも安い店舗へ移動する状況が更に顕著になっており、小売としては消耗戦に向かう戦術が多くなる。生鮮物の高値は少量の購入にシフトしていく状況になる。
		コンビニ（店長）	・現状がしばらく続く。
		コンビニ（商品担当）	・中期予報からすると天候はプラスに働くと考えたいが、直近2、3か月の傾向を見ていると天候が良くても横ばいの状況である。プラスに働くよう頑張りたいが実際には変わらないと考えている。
		コンビニ（総務）	・平成30年7月豪雨もあり、この先の消費が読めない。
	衣料品専門店（経営者）	・直近の4か月は、大きな数字の伸びではないが、比較的順調にきており、8月は悪い月になると予想するが、秋以降は、うまく行くのではないかと、期待できるのではないかと。	
	衣料品専門店（営業責任者）	・猛暑の影響で外出を控えるようになっており、来客の減少は続くと思われる。また、秋物商材への影響も大きい。	
	家電量販店（副店長）	・客数の伸びがない。対策等しているが客の反応は鈍い。	
	乗用車販売店（従業員）	・新車受注及び車検、メンテナンスなどの受注は平年並みで推移しているが、ガソリン、軽油の値上がりの影響が心配である。	
	乗用車販売店（従業員）	・消費者の動きが鈍く、新車受注・車検、メンテナンス共に苦戦している。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・天候、災害等、いつ何が起こるか漠然と不安であり、財布のひもは緩みようもない。	

	一般レストラン（経営者）	・しばらく低調ムードである。
	観光型旅館（経営者）	・平成30年7月豪雨の影響もあったが、全国との競争の中で、四国には新幹線がないなど、様々な問題があり、交通の便なども良くなるといけない。香川県は、関西にも近く、飛行機の離発着も多いため、客も増えてきているが、愛媛県は、かなり厳しい状態である。
	通信会社（支店長）	・変動要素は、見当たらない。
	商店街（代表者）	・平成30年7月豪雨の災害と猛暑の影響で今後2～3か月は良くなるとは感じられない。
	一般小売店〔生花〕（経営者）	・猛暑が続くそうなので、お盆・お彼岸のお墓参り商品は例年よりも売行きが悪くなりそうである。暑さで長持ちしなくなるので、少量販売が中心になってくる。
	百貨店（企画担当）	・平成30年7月豪雨による消費マインドの低下は、かなり長引く。
	スーパー（財務担当）	・他業態を含めた他社との競合がますます激化する。
	衣料品専門店（経営者）	・平成30年7月豪雨の災害の影響もあり、2～3か月は、販売、景気は良くなるのではないかと。
	家電量販店（店員）	・季節商材が落ち着いた後は反動で買い控えが予想される。
	乗用車販売業（営業担当）	・新型車の効果も薄くなるので、悪くなると予想される。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・今が、一番ピークに近い現状である。2～3か月先は、少し悪くなる。
	美容室（経営者）	・現在は暑さのお陰で好調であるが、暑さも収まると思うので普通に帰ると予想する。
×	一般小売店〔乾物〕（店員）	・自然災害に加えて、阿波踊りの騒動があり、阿波踊りの時期にホテルが埋まっているのは、前代未聞である。
×	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・景気も低迷しているので、客はどんどん低価格の店へ流れていく。小売店では太刀打ちできない。
×	コンビニ（店長）	・依然として来店客数の減少が止まらず、今後も現状の減少傾向が続く。
×	都市型ホテル（経営者）	・平成30年7月豪雨の影響がまだ続くと予想する。また、暑さでレストランの利用が非常に落ち込んできており、8月、9月も続くと思う。費用面では、野菜が高騰しており、この暑さで水道光熱費が大幅に上昇する予想なので、景気は非常に悪くなると予想している。
企業動向関連 (四国)		
	食料品製造業（商品統括）	・冷凍食品業界は、得意分野を着実に伸ばしており、海外への販路を構築しつつある。
	繊維工業（経営者）	・ここしばらくは暑さが続き、夏物商材の受注が旺盛であると予想する。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・9月からは本格的な需要期に入るので、受注は増加してくるものと予想する。
	鉄鋼業（総務部長）	・前月同様、受注は増加するが人手不足解消に至っておらず、外注量が更に増加している。収益的には厳しい。
	農林水産業（職員）	・ガソリン価格も高止まりし、暑さで外出を押さえる傾向もみられる。内食の増加が想定され、外食の利用率低下が予想される。青果物の価格は、外食産業などの需要により引き上げられることから、このような天候が続くようなら鈍い取引が続くことが心配される。
	食料品製造業（経営者）	・原材料費（小麦主体）、包装資材費、物流費の値上がりによって原価が上がっている現状だが、小売価格は上げられず、コスト上昇分を製品販売価格に転嫁できないため、利益が圧縮されていくと推測している。
	木材木製品製造業（資材購買）	・悪くはないが4～7月の動きから今年は前年並みを確保することは困難な印象である。
	電気機械器具製造業（経理）	・得意先からの受注及び発注見通しには、特段の変動はみられず、また得意先の様子や市場情報に関しても気になる要素は認められない。
	建設業（経営者）	・3か月先の見通しでは、官民とも工事は少ない。
	輸送業（営業）	・依然として燃料油価格の高止まりが続いており、経営を圧迫している状態に変わりはない。天候が良ければ季節商材の活発な動きに加え、お盆休みや9月の大型連休に向けての特需も見込まれるが、燃料油価格が下がらない限り厳しい経営状態が続くものとみている。
	通信業（総務担当）	・変動する要素が見つからない。
	通信業（企画・売上管理）	・平成30年7月豪雨の影響が落ち着くのではないかと想定している。
	広告代理店（経営者）	・インパウンド関連や人手不足に伴う求人広告は多少増加傾向であるが、多くの得意先の販促広告等は余り変化がないため全体としては変わらない。

	公認会計士	・道後地区のインバウンド効果は、非常に景気にプラスになっていると思うが、残念ながら、南予地区の今回の豪雨被害が広がるようであり、将来的には影響が心配されるところである。経営者の皆様からも、そういう意見が出ている。
	電気機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギー、特にバイオマス発電で新規事業を行うとすると、大変な規制がかかってくる。案件が前に進まないことには建設が進まないの、大変悪い結果になっている。
	建設業（経営者）	・平成30年7月豪雨の被害が的確、具体的に把握され、増えていくと考えられる。また、インフラ等の復旧にも時間が掛かること、自粛ムードの継続等により、当分の間は、悪い状態が続く。
	輸送業（支店長）	・円安による原油価格の高止まりがあるなか、平成30年7月豪雨によるJR貨物の不通が発生した。JR貨物の不通は順調に推移してきたモーダルシフトの流れが止まる可能性がある、そつなると運転手不足、車両不足に拍車が掛かる恐れがある。
	金融業（副支店長）	・取引先等が平成30年7月豪雨の被害に遭っていれば、取引にも重大な影響が出てくる。ただし、土木工事業等の復興で活況が予想される業種もある。
	x	-
雇用 関連	-	-
(四国)	人材派遣会社（営業担当）	・誘致企業の積極的な人材募集が継続される見込みである。
	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期に入り、求人数の増加が予想される。
	人材派遣会社（営業）	・平成30年7月豪雨の影響で景気回復にはもうしばらく時間が掛かりそうである。特に修繕が必要となっている公共施設では一部運休もあり、夏休み時期の集客に影響が懸念される。
	新聞社[求人広告]（担当者）	・2～3か月では変わらない。
	職業安定所（職員）	・人手は不足しているが採用条件を向上させるほどの利益は期待できないので今の条件で募集する企業が多い。
	職業安定所（職員）	・求人、求職者の動きに大きな変化はみられず、現状の雇用・失業情勢が、大きく変動する要因は見当たらない。
	学校[大学]（就職担当）	・政治リスク、国際情勢リスクは十分想定されるものの、ファンダメンタル自体は短期的には変わらないと思う。
	求人情報誌（営業）	・人材不足で疲弊している企業の人材が充足する要素・材料が少なく、この状況が更に続くと予想される。
	職業安定所（求人開発）	・6月の有効求人倍率は1.44倍で、平成28年7月以降、1.3倍以上が続き、大きな変動はないが、今後、平成30年7月豪雨の影響が出てくる。
	民間職業紹介機関（所長）	・土木関係の公共事業が、酷暑の影響で遅れている。地方においては、土木関係の人材が集まりにくい現況のなかで、暑さに耐えきれずに辞めていく若者も多く、ますます人材不足感が拭えない。
	x	人材派遣会社（営業担当） ・2018年問題で、直接雇用が進んでおり福利厚生費が高騰していく。